

2022年度文系チャレンジ講座（第7回）を実施しました

12月21日（水）に教育学部の安道 百合子先生を講師に迎え、「古くて新しい古典文学の世界」というテーマで、文系チャレンジ講座第7回を実施しました。国東、別府翔青、大分雄城台、大分鶴崎、臼杵、竹田、三重総合、日田、中津南、大分豊府、大分東、中津北、津久見の13校125名が受講しました。



安道百合子（大分大学）

【資料4】 『竹取物語』の構造

- 1 かぐや姫の生い立ち
- 2 求婚譚
- ① 石作の皇子—仏の御石の鉢
- ② くらしの皇子—蓬萊の玉の枝
- ③ 阿倍石大臣—火鼠の皮衣
- ④ 大伴大納言—龍の頭の五色の玉
- ⑤ 石上中納言—燕の子安の貝
- 3 帝の召し。御狩の行幸。
- 4 かぐや姫、月に帰る

奇抜な描写や洒落っ気たっぷりの言葉遣い、また中国やインドはおろか月世界まで見晴るかす壮大なスケールは現代人も真っ青になるような驚きの物語であるとお話されました。

最後に竹取物語はプリンセスストーリーか？という話をされました。ディズニー映画のプリンセスはシンデレラからアナ雪、ラプンツェルと変容して、今ではプリンセスが自ら道を切り開く

日本文学、中古・中世物語文学が専門の安道先生は、竹取物語を取り上げ、かぐや姫から贈られた不死の薬を帝は燃やしたそう。それはなぜだろうと問いかけました。物語を読む中で、人それぞれの解釈があつていいとお話されました。竹取物語は言葉遊びや固有名詞が多く出てくる物語で、平安初期を風刺するような表現が描かれていると説明されました。

竹取物語に描かれた奇

【資料7】 『竹取物語』が作られた時代

- ▼ 仏教経典や医学書の知識をもとにしている
- ▼ 貴族の密貿易を批判
- ▼ 齋部氏（古い伝統を固守）と中臣氏（神祇行政に進出）の確執
- 背景は……？
- 平安初期
- 律令の再建と大学の拡張
- ↓ 知識人の大量失業時代

映画が多くなっているが、かぐや姫は月に帰るといふ、受け入れるしかない運命を受け入れたと説明されました。

「文学」とは、言葉を用いる芸術である。どんな作品なのかディスカッションしたり、読み解いてどんな意味なのかを考えたりする、また規範を問うたり、疑ったりする、人間存在を問うようなことを考える学問であるとお話されました。

受講生からは「今ま

で竹取物語を授業で取り扱ったことがありましたが、知らなかったことが沢山あって聞いていて面白かったです、助動詞によってどんなふうに物語を導いているのか、人間性を感じ取れて素晴らしい作品なんだなあと改めて思いました。背景を知ることができて古文を研究することの楽しさを感じました。」

「竹取物語は冒頭の部分しか知らなかったもので、今回の講座



天上界の論理
不老不死

地上の論理
生者必滅

で詳しいところまで知ることができて貴重な体験になりました。言語文化は個人的に好きな教科なので今回の講座はとても楽しかったです。」

「古文は少し苦手だけど、思ったよりも面白いものだと思います。これから学ぶときはもっと色々な視点をもってみたいと思いました。」等の感想が寄せられました。

- ### 【資料10】「文学」とは
- ▼ 「規範」を問う。疑う。
 - ▼ 「人間存在」を問う。
 - 『竹取物語』は「女子どもへの物語」のペルをまといつ、時代への風刺精神に満ちている。
 - 愚かで思い煩う人間を描く一方で、意志を持って「不死」の薬を捨てる人間を描いた。